

研究課題名 競技スポーツにおける競技者の卓越と徳からみる競技者論

研究代表者 佐藤 洋

本研究の目的は、いくつか意味内容のある「善さ」を「有徳な状態」と捉えて、競技者における「アレテー（徳）」の概念を論理的に解明することである。

本論では、アリストテレスの実践学に倣いながら、「競技者のアレテー（徳）」を「有徳な状態」と措定した。本論の考察では、「状態」は「行為」の「習慣づけ」に基づくという議論、よく「行為」することは「状態」をよくするという議論、知慮がはたらいてよく「選択」するとき「中庸」に関するという議論、「中庸」は「中」を目指すことであり、「中」をとること自体が「有徳な状態」であるという議論、「有徳な状態」に関する「徳」と「悪徳」の対立関係論、そして導き出された「有徳な状態」から現実の競技者を検討した議論が展開されてきた。以上の考察によって、競技者の「善さ（アレテー）」とは、アリストテレスの実践学において、「アレテー（徳）」としての「有徳な状態」における「諸徳の行使」から導かれることを示している。

競技者における「アレテー（徳）」の概念とは、競技者としての「機能（エルゴン）」をよく働かせてよく生きる（エウ・ゼーン）活動という内包と、実際の競技者の議論において検討された「やるべきことをやるためにきついこと」をやるような行為、「いま」の競技者自身のために「行為」を習慣づけるような在り方、また、常に勝利者であろうともプレッシャーに打ち克つような「有徳な状態」にまで「自身を高めること」に代表される外延を以って示されることになる。

したがって、競技者の「アレテー（徳）」とは、すべて現在の「状態」までに習慣づけられた行為に表出されるものである。それが故に、善き競技者とは、「中」を「選択」する知慮がある前提のもと、競技者における何らかの悪徳に対して「節制力」を以って“打ち克つ”「行為」を「選択」するような「有徳な状態」であると結論づけられる。